

～データを踏まえて未来を構想し、探究し、行動する科学技術人材の育成～

《教員もデータサイエンスを学んでいます》

本校の探究活動においては、教員も生徒も共に答えのない問いに日々挑んでいます。12月1日、兵庫県立姫路西高等学校の林宏樹先生をお招きして、教員がデータサイエンスの指導について学ぶ研修会を開きました。「皆さんは、データサイエンスしていますか」という質問から研修が始まりました。

教員も全員がデータサイエンスの専門家ではありません。しかしデータに対して「なぜだろう」という疑問を持ち、生徒と共に考えを深めることで、分析の質を高めることができます。また、言葉の定義も厳密にしなければなりません。一見意味がありそうで、よく考えると意味が分からない「マジックワード」の具体を明らかにすることで、問題の本質に近づくことができます。

《研修後の授業》

この教員研修を受けて、2年普通科RAP応用Aの一部のクラスでは、情報科の市本教諭がデータの**可視化・グラフ作成**についての授業を行いました。様々なデータセットについて、テーマごとにどのような表やグラフを用いればよりよい分析につながるのかを考えました。



この授業を受けた生徒たちにとっては、自分たちのデータ分析の妥当性や厳密性について振り返り、レベルアップするきっかけとなりました。

2年RAP応用Aでは2月1日に分野別成果発表会が開催されます。データ分析の精度をより高め、この1年間、班で協力しながら取り組んだ研究の成果をあますところなく発表してほしいと思います。

また、2月4日には島根県教育委員会主催の「しまね探究フェスタ2021」に本校から2チームが参加します、健闘を祈ります。



データの収集や解析にもひと工夫が必要だと学びました。インターネット上などに掲載された、誰かがすでにグラフ化したデータを第三者である私たちがそのまま使用することは、データサイエンスとはいえません。まずRESASや教育用標準データセットなどの「オープンデータ」を、ExcelやPythonのプログラムなどを用いて自ら**整理・整形**します。そのデータを適切な表やグラフで**可視化**し、そこから何が読み取れるのかを考えることがデータ解析なのです。

《今後の予定》

- | | |
|-------|-----------------|
| 1月25日 | 1年未来創造ミニ探究成果報告会 |
| 2月1日 | 2年普通科分野別成果発表会 |
| 2月4日 | しまね探究フェスタ2021 |
| 2月9日 | SSH 成果発表会 |